

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372300244		
法人名	社会福祉法人 宝寿会		
事業所名	グループホーム はなみずき石鳥谷		
所在地	〒028-3102 岩手県花巻市石鳥谷町上ロー丁目3-1		
自己評価作成日	令和7年12月25日	評価結果市町村受理日	令和8年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人として「人」「心」「安」を理念に掲げ、また「和と笑顔」をモットーに利用者様一人ひとりに寄り添いながらケアを行っています。又、外出支援を行い季節を感じていただき、気分転換を図れる様に努めております。地域交流をする機会は少ないですが、地域のお祭り見学や宝寿会全体での地域交流会を開催し楽しめました。今後も地域とのつながりを大切に支援していきたいと思います。隣接施設の養護老人ホームの看護師と連携を図り、健康管理に努めており医療へスムーズにつなげられる様にしております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧国道4号線から僅か東へ入った住宅地に立地し、川と緑に囲まれた穏やかで落ち着いた環境にあって、近隣にはドラッグストアやスーパーマーケットがあり、利便性にも優れている。「人」「心」「安」を大切にするという基本理念に基づき、できるだけ「その人らしい生活」が送れるよう支援に努めている。法人が運営する養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、デイサービスセンターが同じ敷地内にあり、行事開催、災害訓練、看護師による定期訪問による健康管理など、連携のメリットを活かしている。利用者が重度化した場合でも、連携する法人の存在が、家族に安心感を与えている。また職員にとっても、資格取得や研修への受講、休暇などのバックアップ体制が充実し、働きやすい職場環境が整っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

〔評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会〕

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はなみずき石鳥谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「人」「心」「安」の理念を共有し、「和と笑顔」をモットーに利用者一人ひとりに寄り添い、その人らしく生活することができるように努めている。	「人」「心」「安」を大切にするという基本理念に基づき、その人らしい生活が出来るよう個人の尊厳を大切にしたケアを実践している。週一回、朝のミーティングで読み合わせを行い、職員間で共有を図りながら理解を深めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	法人の広報誌を発行し地域に回覧したり、閲覧できるようにしている。行事を行う際には、地域の方々に声をかけて参加していただき、散歩などで近隣に出掛けた際は、地域の方と挨拶や会話をして交流をもっている。	年祝いや大掃除などの地域の行事に毎年参加しているほか、母体施設が実施するレクリエーションや健康づくり、さらに防災災害訓練でも住民に積極的に声を掛けて地域との連携を図っている。また、職場体験の中学生や介護実習の大学生も受け入れている。法人の広報を地域に回覧し、事業所の発信に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々が気軽に立ち寄れたり、相談があった際には速やかに対応できるような体制を整えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催し、意見交換、情報交換、施設見学を行っている。利用者の代表者にも参加していただき、生活の様子や意見を発していただいている。	系列の特別養護老人ホームと合同または事業所単独で2カ月に1回開催している。メンバーは区長、民生委員、市の担当課課長、地域包括支援センター職員、家族代表で構成され、利用者も体調を見ながら参加している。イベントの様子、日々のレクリエーションの内容、事故等の発生報告など、サービスの具体的な内容や現状を報告し、それぞれの立場からの意見や情報を運営の改善に活かしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はなみずき石鳥谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	必要時には市町村担当者と連携をとる事ができている。随時入居状況を伝えながら相談させてもらっている。	運営推進会議に市の担当課職員や包括支援センター職員が参加している事で、連携が図られ入居状況など伝え、事業所運営の改善にも相談や助言をいただいている。家族の代理として介護認定の書類を直接総合支所に届ける事で、職員とは話易く、顔見知りの関係が出来ている。現在包括支援センターと連携しながら、事業所としての認知症カフェへの取り組みを検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に行われる身体拘束適正化委員会に参加し取り組みの報告をしている。施設内研修や事業所内のミーティングなどで身体拘束について学習し、常に身体拘束をしないケアを検討しながら支援している。	法人主催の「身体拘束廃止委員会」や施設内研修を通じ、職員全体が問題意識を共有している。家族に対しても、身体拘束に対する基本的な考え方や事故防止策について丁寧に説明している。スピーチロックに気付いた時には、同僚として即座にその場に入り、状況を改善するよう努めている。家族の了承のもと、転倒予防のため4名がセンサーマットを使用している。玄関の施錠は、夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	全職員が施設内研修に参加し、虐待防止について学び、日常の介護において気になる事があれば随時確認して、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について活用できるよう連携を取っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はなみずき石鳥谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、わかりやすく説明を行い、納得していただいたうえで同意をいただいている。不明な点はいつでも聞かせていただくようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からは日々こまめに意向を聞き取っている。ご家族とは通院時や来荘時に意見や要望等聞き取っている。	利用者からは、日々の生活の中で意向や要望を聞き取り、家族からは、面会時や通院の同行時に伺うようにしている。毎月、家族に請求書を送付する際、担当者が利用者の健康状態や日々の生活の様子などを報告し、家族と連絡を取り合える関係性が出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に1回施設長と個人面談を行い、要望や意見を伝える機会を持っている。日々の中で相談等があれば随時相談することができている。	資格取得、異動や勤務時間の変更の希望など職員から代表者に話しやすい雰囲気があり、モチベーションの向上や求職者への強いアピールにつながっている。施設の代表者は職員と個人面談を行うなど、常に職員のフォローに心掛け、勤務体制の見直し、子育て中の職員のために育児時間を設定するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。また、大型テレビの購入も職員の提案を具体化したものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長との面談の通して行われている。給与については、資格取得のための費用や勤務の便宜を図ってもらうことができている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム はなみずき石鳥谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月施設内研修が行われており、業務を調整し全職員が参加できるようにしている。参加できなかった際には、資料にて自主学習している。施設外研修については、職員から参加希望を聞きできるだけ希望に添って参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内での交流は図ることができている。施設外では研修参加時などに交流する機会を持つことができている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に事前に面談を行い、本人や家族から情報を集めている。日ごろからこまめにお話を聞きとり、本人の思いに寄り添い信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面談や契約の時に、ご家族からお話を伺い困っていることや要望を聞き取り対応している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はなみずき石鳥谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面談や契約時などにお話を伺い、職員会議を行い職員間で情報共有し、必要な支援の対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯たたみや食器拭きなどを一緒に行い、感謝の気持ちを伝えながらより良い関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	共に支える関係作りのため、毎月生活状況を報告する際に、できるだけご本人の言葉や様子をご家族に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会や外出等の希望がある際には希望に沿って支援している。感染症流行により制限を行う場合もある	家族や知人が頻繁に面会したり、家族と一緒に気軽に外泊・外出したりできるように支援している。利用者の出身地周辺をミニドライブで訪れた際には「懐かしい」の声も聞かれる一方で、地域の行事への参加や法人全体での地域交流会などを通じ、新しい馴染みができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入り、会話や活動をして利用者同士が共に関り楽しめるように努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム はなみずき石鳥谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後でもご家族にお会いした際には、お声をかけている。退居後でもいつでも相談できることをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の言葉や想いを職員全員で共有し希望や意向に添えるように努めている。	ほとんどの利用者は自分の意向や思いを伝える事が出来ている。利用者の表情や会話のちょっとした一言を書き留め、職員で共有している。食べたいものの希望や要望が多く、意向に添えるよう誕生会などの際に提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始から施設で日ごろの生活の様子など些細な事でも職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日課は決めておらず、一人ひとりに合わせてケアや余暇活動を行っている。活動の様子など職員間で情報共有している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はなみずき石鳥谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングは居室担当者と計画作成担当者が話し合いケアプランを作成している。ご家族やご本人から生活の様子や意向を確認しながら3か月に1回行っている。	介護支援専門員が利用者や家族と面談して、心身の状況、希望などを把握・分析し、それに基づきサービス担当者会議で見直し後の計画の原案を検討・調整している。計画の見直しは3か月ごとに行い、利用者と家族の同意も得ている。その後も定期的にモニタリングし、必要に応じて計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	「介護実行表」「申し送り」「ケース記録」にて情報共有している。特に重要な申し送りはパソコンの共通連絡に記載し、確認したら職員一人ひとりがチェックする仕組みになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとりにあった柔軟なサービスができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	家族や運営推進会議のメンバー、かかりつけ医や法人職員が見守りや声掛けを行っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はなみずき石鳥谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族対応でかかりつけ医に通院しているので、バイタル表や健康状態など必要な情報を伝え適切な医療を受けることができるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医に通院している利用者がほとんどで、同行する家族にバイタルサインの記録を渡し、受診後は結果を確認している。系列の養護老人ホームの看護師が週1回来所して利用者の健康状態を把握し、必要な処置を行っている。協力医療機関と協力して医療サポート体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回看護師が訪問し利用者の状態を診ている。また、24時間連絡がとれる体制になっており、必要な指示を仰ぐことができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日常の様子を伝えている。入院中の様子はご家族や医療連携室の職員から聞きとり連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合について説明し同意をいただいているが、終末期には再度ご家族と話し合っている。現在の段階では看取りは行っていないため、ご家族にも説明し理解を得ている。	重度化や終末期におけるケアのあり方について、入居時を始めできるだけ早い段階から本人や家族と十分に話し合い、方針を共有することに努めている。かかりつけ医などの医療関係者と連携し、適切な医療ケアが受けられる体制を整えている。次の生活の場の確保に向けた家族との話し合いなど、利用者が日々の生活を安心して送れる支援体制を構築している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム はなみずき石鳥谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	家族やかかりつけ医の連絡先を登録し、職員間でコミュニケーションをとり対応している。すぐに見えるところに緊急時フローチャートや連絡先を記入したものを貼っている。看護師とは24時間連絡を取れる体制となっている。又、救命蘇生法等の訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回法人の避難訓練と定期的に施設内でも避難訓練を行っている。法人の避難訓練には地域住民も参加していただいている。水害避難については隣接の特養3階会議室に避難することとなっている。	夜間想定など様々な状況を考慮した避難訓練を年2回実施している。1回目の総合訓練には地域住民や外部の関係機関も参加している。市のハザードマップを活用し、災害リスクの把握や避難経路の確認を行っているほか、備蓄品の管理も的確に行っている。系列施設である特養の3階を地域の福祉避難所としているほか、災害時にはサイレンで知らせ、地域住民の協力を仰げるようになっている。3日分の食料を備え、法人には発動機も備えられている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した声掛けを行っている。	利用者の人権、プライバシー保護を目的とする業務マニュアルを作成している。排泄介助では、カーテンを閉めるなどの隠す工夫や定期的に声をかけて自然な排泄タイミングを逃さない工夫をしている。入浴介助でもカーテンやドアを閉め、他の利用者や職員から姿が見えないようにしている。利用者の尊厳を守るため、苗字にさん付けの敬称で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定ができるような問いかけを行っている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム はなみずき石鳥谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望を伺いながら、一人ひとりの生活のペースに合わせて過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分で選ぶことができるかたは、ご自分で選んだ服を着ていただいている。難しい方は職員が選び、季節にあった服装ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と一緒に盛り付け、茶碗ふき、テーブル拭きを行っている。行事では一緒に調理したり、干し柿作りなど季節を感じるような食事を提供している。	献立は外食業者から一週間分が届き、特養の栄養士が確認している。食材は毎日届き、職員はご飯とみそ汁を手作りしている。月1回の給食委員会で各事業所代表と業者を交えた話し合いが行われ、栄養士が行う年2回の嗜好調査を基に、利用者の好みを取り入れた献立を作成している。利用者は、盛り付け、食器拭き、テーブル拭きなど出来る範囲で手伝い、おやつ作りにも参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士や看護師と連携し、その方にあった食事量や形態で提供している。摂取量や摂取状況を確認している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム はなみずき石鳥谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自分でできる方は声掛けして行っていただき、支援が必要な方でもうがいなどできるところはご自分で行っていただき職員が手伝っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	介護実行表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握してできるだけトイレで排泄できるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りおむつを使用せずにトイレでの排泄ができるように支援している。排泄の誘導や介助、失禁への対応時にも、利用者の羞恥心に最大限配慮している。利用者の尿量に合わせたパンツを使用している。転倒リスクの軽減や適切な介助タイミングの把握のため4人が離床センサーを使用しているほか、移動リスク低減のため4人が夜間、ポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医師や看護師と相談しながら便秘薬の服用や十分な水分補給や体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	安全を考慮し、職員が多い日中に入浴を行っている。一対一で入浴しており、ゆっくりとお話したり、皮膚状態を確認することができている。	一週間に2、3回の入浴で、曜日や時間帯を固定せず、利用者個人の生活習慣に合わせて、最も快適なタイミングで入浴できるよう調整している。一対一の介助を心掛け、着脱の際には、タオルを掛けたり、後ろに立つなどしている。利用者の体調の変化や身体の異常に特に注意している。入浴時間は利用者にとって昔話をする場であり、職員と一緒に民謡や歌謡曲を歌うなど、コミュニケーションの取れる癒しの時間となっている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はなみずき石鳥谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの体調にも考慮しながら休息していただいている。夜間はゆっくりと休んでいただけるよう、照明や館内の温度調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書を確認し、副作用についても注意しながら職員間で情報共有や様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりができことや楽しみを見つけて支援している。茶碗ふくやテーブル拭き、盛り付け、洗濯たたみ、雑巾作りなど特技をいかしたり、今までやってきたことなどなじみのことができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外気浴や散歩を行って、地域の方と交流したり季節感を感じることができている。春と秋にはドライブを行い、皆さんと一緒に外出し楽しんでいただいている。	天気の良い日には、玄関のベンチで外気浴をしたり、近くの公園や事業所の周りを散歩し、気分転換を図っている。季節ごとに、花見や紅葉狩りといった四季のドライブを楽しみ、道の駅へ出かけ、利用者の食べたい物を食事して来るなどしている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム はなみずき石鳥谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理はご家族が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を使用してご家族とお話している方もいる。年賀状を出したり、希望時には手紙を書いたりやりとりできるような準備をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者と一緒に季節に応じた作品作りを行い、飾っている。行事で撮った写真を廊下に飾ることで歩きながら写真を見てその時のことを思い出すきっかけとなっている。館内は冷暖房完備しており温度調整して居心地よく過ごすことができる。	食堂兼ホールにはテーブルやソファが設置され、利用者はテレビを見たり、折り紙を折ったり、思い思いに過ごしている。リビングと対面しているオープンキッチンからは食事の支度をする様子が見え、音や匂いなど家庭的な雰囲気を感じる事が出来る。室内はエアコン、加湿器が設置され、温度や湿度が快適に保たれている。壁面には絵馬の塗り絵、季節に合わせ職員と一緒に作製したものや、行事で撮った写真が飾られ、居心地よく過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個人の居室のほかに食堂や玄関ホールなどそれぞれの場所で過ごしていただいている。食堂では、利用者同士の関係性にも考慮しながら座席にも工夫している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム はなみずき石鳥谷

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている。	入居時は、使い慣れた物や寝具、衣類を持っ ていただいている。	居室にはエアコン、ベッド、クローゼット、洗面台、 床頭台、ヘッドライト、時計、温湿度計、椅子、 カーテンが備えられている。利用者は慣れ親し んだ布団やテレビ、家族写真、衣装ケースを持ち込 んでいる。入口には折り紙で作った額縁に利用 者の写真を貼り、自室が分かるように工夫されて いる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫してい る。	トイレや居室がわかりやすいように表示したり、 ご自身の居室にはお名前や写真を張ってわかり やすいよう工夫している。できることはご自分 で行っていただき、自立を促している。		